学校だより　　平成２８年２月号

かつき

志布志市立香月小学校

巣立ちを前に

校　長　　中條　健一郎

今年の冬は寒暖の差が激しい冬を過ごした。立春を過ぎ，暖かな春の日差しがとても心地よいものを感じさせてくれる。２月は，「光の春」，３月は，「気温の春」と言われるが校庭の植物たちも，木の芽やつぼみを大きくふくらませ，本格的な春の到来を待ち望んでいるようだ。

校舎の窓からは，卒業に向けての歌声が各学級から聞こえてくる。卒業生を思って歌う下学年の子どもたちの歌声には，心に迫ってくる「別れ」を感じさせる。６年生が，香月小を巣立つのも間近にせまってきた。

さて，私たちの住む鹿児島県は，子どもに夢を与え続ける存在である児童文学者「椋鳩十」が生前過ごしたところである。５年生の国語の教科書にも椋 鳩十作の「大造じいさんとガン」が掲載されており，日本中の子どもたちが必ず椋鳩十の作品に触れることができる。この椋 鳩十が，死の間際の病床の中で，口述により残した詩がある。

「生」に対する，どこまでも温かい彼のまなざしが込められており，静かに心に残る作品だと感じる。

「日本の村々に」椋　鳩十
日本の村々に　人たちが
小さい喜びを追っかけて　生きている
ああ美しい　夕方の家々の
窓のあかりのようだ

子どもたちは，６カ年の小学校生活の一日一日を毎日のように「小さい小さいよろこびを追いかけて生きているのだ」と思う。そして，家路をたどる先には各家庭が家々の窓の明かりをともして待ってくれている。

子どもたちを育む家庭や地域があってこそ，豊かな心が育ってきているのだと思う。本年度も残すところ，あと三週間あまり。子どもたちにすばらしい思い出の一年となるよう努めたい。

よりよく過ごすために

３年生以上が参加して，児童総会を開きました。

各委員会からの活動報告に対しては，「こんな取組もしてほしい。」等の要望が出され，今後の活動に反映されていくようです。

また，異学年同士で遊ぶ際，スムーズに活動をスタートさせるためには，どうすればよいかについて話し合いました。周りの友達と意見交換してからの討議は，学校生活をよりよく過ごすための自治活動の一環として充実した時間となりました。